

# カラー診断時にドレープが顔色に及ぼす影響(2)

## Effects of wearing drapes on facial color during personal color diagnosis (2)

市場 丈規 T.Ichiba Color Lab. for full Life  
 近藤 恵未 E.Kondo 菅 育子 I.Suga 竹川 一良 K.Takekawa  
 谷田留美絵 R.Tanida 富本いちこ I.Tomimoto 疋田 千枝 C.Hikita  
 吉田名保美 N.Yoshida (くらしの色彩研究会)

Keywords : パーソナルカラー診断, 一対比較法,  
 サーストン(ケースV), NCS表色系.

### 1. はじめに

「カラー診断時にドレープが顔色に及ぼす影響(1)」でパーソナルカラー診断時にドレープが顔色に及ぼす影響について、2次元色彩輝度計による測色値を示した。その結果ドレープの映り込みによる肌色の測色値変化が大きいことが明らかになった。

本研究では、パーソナルカラー診断時に顔色の測色値変化がどのように影響しているのかを前報の測色に用いた10色のドレープを使い、一対比較法で検討した。

検討方法として4シーズン診断でWinterと診断されている40代の女性とSpringと診断されている20代の女性を被験者とし、ドレープが見えない状態での診断と通常通りドレープを見ての診断をパーソナルカラリスト10名に交互に行ってもらい、診断結果を比較検討した。

ドレープを見ずに診断した結果では被験者間の差が少なく、映り込みの影響が診断にも顕著に反映していた。

一方、ドレープを見て診断した結果は、見ずに診断した結果と大きな相違がみられ、各シーズンの特徴がよく表れた結果となった。

このことからドレープによる顔色の測色値変化がカラー診断時に必ずしも一義的な影響を及ぼしているわけではないことがわかった。

### 2. 診断条件

1) 照明条件は前報と同じく、高演色性LEDライト(東芝ライテックLEDミニライト600クラス: 5000K、Ra=92以上) 13.3W2灯を顔に対し

に設置し、パナソニック3波長型蛍光灯昼白色32W4本(天井部)を補助光源として用いた。診断時の照度は顔中央部で約1300lx(LEDライト2灯で約500lx)とした。尚、照度計にはトプコンIM-2D(JIS A級準拠)を使用した。

2) 被験者として、4シーズン診断でWinterの40代女性とSpringの20代女性にお願いした。被験者は普段通りの化粧をした状態で行った。背景には約N7.3の艶消しボードを被験者から80cm後方に設置した。

3) ドレープは前報に用いた10色を用いた。ドレープのNCS値を(表1)(図1)に示す。NCS値は視感測色によって求めた。

表1 使用したカラードレープの色度

記号	色名	YD50	x	y	NCS(視感測色値)
W	ホワイト	78.60	0.34	0.35	S0200-N
Y	ゴールドイエロー	60.54	0.46	0.45	S0560Y-20R
v-Pi	ピーチピンク	54.33	0.42	0.38	S0520-Y85R
b-Pi	ベビーピンク	50.28	0.40	0.33	S0540-R20B
v-G	ライトグリーン	31.09	0.32	0.49	S2060-G20Y
b-G	ターコイズグリーン	20.39	0.25	0.42	S2555-B80G
y-R	トマトレッド	15.21	0.59	0.33	S1080-Y90R
b-R	ローズレッド	13.52	0.54	0.32	S1080-R05B
B	ロイヤルブルー	11.77	0.21	0.25	S3560-R80B
Bk	ブラック	2.66	0.34	0.35	S9000-N

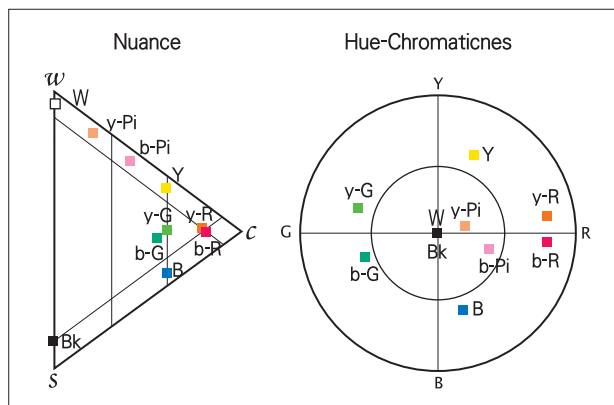


図1 ドレープ色のNCS表示

### 4) 診断方法(一対比較法による評価)

診断方法は被験者と診断者の間に約N5.5のボードを立て、10枚のドレープから2枚ずつランダムに45組合せを、休憩を挟み2回繰り返し提示した。診断者は被験者から約3mの距離からボードでドレープが隠れる状態とドレープが見える状態それぞれでの印象の良し悪しを一対比較法で評価した。(図2)



図2 カラー診断の様子

### 3. 一対比較法による評価結果

評価結果を表2-5に、サーストン(ケースV)による距離尺度表示を図3-4に示す。

表2 40代女性Winter ドレープを見ずに比較

	W	Y	y-PI	b-PI	y-G	b-G	y-R	b-R	B	BK
W	-	0.80	0.65	0.60	0.95	0.95	0.80	0.90	0.60	0.80
Y		-	0.20	0.30	0.60	0.60	0.40	0.50	0.10	0.30
y-PI			-	0.70	0.95	0.80	0.70	0.70	0.70	0.60
b-PI				-	0.95	0.60	0.85	0.55	0.85	0.60
y-G					-	0.35	0.20	0.10	0.45	0.10
b-G						-	0.20	0.05	0.30	0.60
y-R							-	0.40	0.40	0.20
b-R								-	0.80	0.25
B									-	0.30
BK										-

表3 40代女性Winter ドレープを見て比較

	W	Y	y-PI	b-PI	y-G	b-G	y-R	b-R	B	BK
W	-	0.7	0.7	0.7	0.9	0.55	0.45	0.55	0.65	0.55
Y		-	0.5	0.25	0.7	0.1	0.5	0.1	0.5	0.3
y-PI			-	0.05	0.35	0.5	0.15	0.25	0.1	0.05
b-PI				-	0.7	0.5	0.3	0.4	0.3	0.3
y-G					-	0.4	0.1	0.25	0.05	0.3
b-G						-	0.45	0.35	0.1	0.15
y-R							-	0.1	0.45	0.35
b-R								-	0.45	0.55
B									-	0.6
BK										-

表4 20代女性Spring ドレープを見ずに比較

	W	Y	y-PI	b-PI	y-G	b-G	y-R	b-R	B	BK
W	-	0.22	0.56	0.44	0.78	0.89	0.89	0.83	0.94	0.89
Y		-	0.06	0.39	0.72	0.89	0.5	0.56	0.78	0.78
y-PI			-	0.11	0.61	0.72	0.56	0.94	0.89	0.94
b-PI				-	0.78	0.78	0.78	0.44	0.94	0.89
y-G					-	0.22	0.06	0.11	0.11	0.22
b-G						-	0.06	0.06	0.11	0.94
y-R							-	0.28	0.11	0.78
b-R								-	0.44	0.17
B									-	0.33
BK										-

表5 20代女性Spring ドレープを見て比較

	W	Y	y-PI	b-PI	y-G	b-G	y-R	b-R	B	BK
W	-	0.22	0.33	0.11	0.33	0.67	0.67	0.56	0.78	0.78
Y		-	0.28	0.11	0.78	0.67	0.56	0.33	0.67	0.89
y-PI			-	0.44	0.78	0.78	0.56	0.94	0.89	0.89
b-PI				-	0.56	0.89	0.33	0.78	0.78	0.67
y-G					-	0.44	0.11	0.33	0.56	0.78
b-G						-	0.06	0.22	0.44	0.94
y-R							-	0.67	0.67	0.78
b-R								-	0.78	0.78
B									-	0.56
BK										-

### 4. 結論・考察

1) ドレープを見ずに評価した場合は、両者ともピンク系2色とホワイトの評価が高く、グリーン系の評価が低かった。(図3) 顔のみの色変化を観たときには、理想の肌色に近くなる高明度(美白)でピンク系の肌が高評価となり、補色になるグリーン系は最も違和感を感じるため低評価となったと考えられる。

2) ドレープを見ての評価は通常の色診断時と同様でそれぞれに似合うとされる色が高評価であり、Spring・Winterの特徴がよく表れた結果となった。(図4)

3) ドレープによる顔色の測色値変化は非常に顕著である(前報)が、ドレープを見る・見ないでの診断結果比較からこれがカラー診断に及ぼす影響が一義的でないことがわかった。

### 5. おわりに

1) 今回は被験者が2名、診断者が10名と限られた人数・データ数での検討だったため、この結果だけで、評価するのはやや無理があるかもしれないが、カラー診断を色彩学の立場から解析する端緒になれば幸いである。

2) 今回ドレープの色表示にNCS値を用いた。ドレープの色表示に適した表色系についても今後比較検討し、提案していきたい。

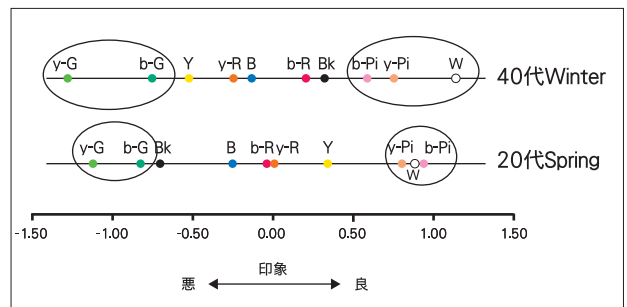


図3 ドレープを見ずに比較(一対比較法による距離尺度)

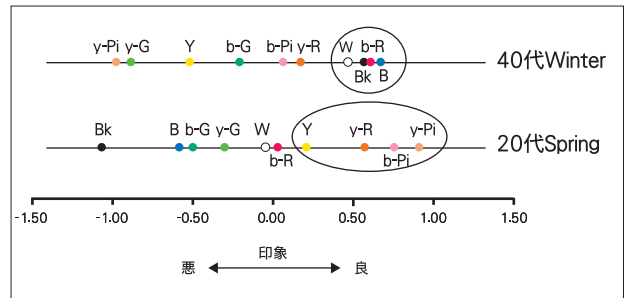


図4 ドレープを見て比較(一対比較法による距離尺度)